

ぶんだ会計通信

■“美意識”というコンセプトual思考をひも解く！【後編】

前月号では『世界のエリートはなぜ「美意識」を鍛えるのか？』（山口周氏著）のヒット要因を探りました。

今月号ではその続編として、「美意識」とはどのようなものなのか？「美意識」を実際に鍛錬する方法とは？をテーマにひも解きしていきます。



令和4年

1&2月号

No.61



“美意識”を鍛えて「知的パフォーマンス」を上げよう

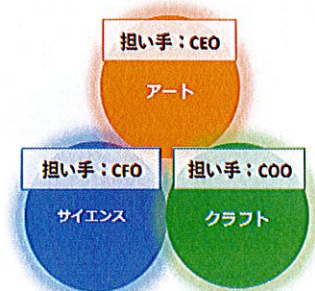
—すべてのビジネスはファッションビジネス化する！？—

① 前月号のおさらい

「論理」や「理性」推し！だけではなかなか勝てなくなった“VUCA”(ブーカ)の時代、打開策として、(密かに)エリートたちが“美意識”を鍛えていることを前月号でお伝えしました。

理論と理性に軸足を置いた従来の「サイエンス」「クラフト」経営に、「**アート**」の要素をプラスした**“トリプル”バランスの経営**が理想となること、また、経営のトップが「アート部門」の担い手になってみる!という新しいガバナンス構造などをお伝えしました(右図)。

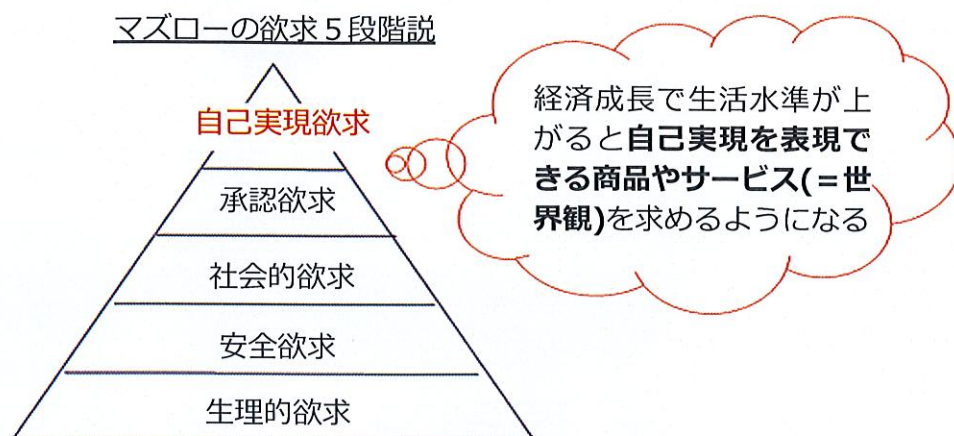
《ASCモデル》



著者の山口氏は、『**これからの経営者は、全体を直覚的に捉える感性と、「真・美・善」が感じられる構想力や創造力が求められる**』と主張していましたね。今回号では、**経営トップが感性を鍛えてアートの担い手（候補）となるために**、ぜひ、トライしていただきたい取り組みをご紹介します。

② えっ？すべてのビジネスが“ファッション”化する！？

少し大きな話になりますが、人類史では、「世界中に広まった豊かさのおかげで、いま、地球規模で、“**自己実現欲求**”の市場」が加速しているのだそうです。なぜ、豊かになると自己実現欲求が深まるのか、「マズローの欲求5段階説」が有名ですね（下図）。



経済成長で生活の水準が上がると、商品やサービスに求められる便益は、最終的には「**自分らしい生き方を実現したい=自己実現欲求**」へ進展していきます。すなわち、私たちの消費行動は、「自己表現」が動機になっていること、すなわち、ビジネスは“**ファッション**”化しつつあると著者はいっています。このような世界では、**企業やリーダーの「美意識」の水準が、企業の競争力を大きく左右する**ということになります。

「いくら考えても答えが出ないから、もう直感で決めてしまえ！」という決断が案外うまくいきますね^^。もしかしたら、その成功の背後に「美意識」があったかもしれません。

③ 「美意識」とは、自己内部の規範のこと

ここで、直感≒美意識？両者はどうつながるの？と思われる方も多いかもしれません。著者が意味する「美意識」とは、視覚的・芸術的な美意識ではなく、**精神的な美意識**であり、リーダーの**主観的な内部のモノサシや世界観**だといっています。

「真・善・美」についても、「真」を「直感」、「善」を「倫理・道徳」、「美」を「審美感性」と捉え、外部の客観性を超えた**自己の哲学や規範**のようなものと定義しています。直感はまさしく自己内部から創発されるものなので、リーダーの美意識をよく反映しているというわけですね。

ということは、「美意識を鍛える」とは、「**自己内部のモノサシをしっかりと持つ**」、「**正解のない問題に対して自分はこう考える、といえる“哲学する力”を養うこと**」と言い換えることができます。

ちなみに、著者は、私たち日本人は**類まれな美意識を潜在的にもった民族**ではあるが、一方で、この高い美意識は容易に失われやすいことも注意しておかなくてはいけないと述べています。たしかに、「侘び・寂び」を美しいと感じるDNAは日本人に組み込まれていそうですね！

④ 「美意識」の鍛え方（その1）-“VTS”で観察眼を磨く

さて、ここからは、いよいよ「美意識」の鍛え方にスポットを当てます。アートの感性を鍛えて、「**サイエンス**」と「**アート**」を個人の中で両立させると**知的パフォーマンスがぐんと向上する**、という研究結果もあり、何かとイイことがたくさんありそうですね！

そのヒントが**絵画の鑑賞**にあります。絵の観察眼を鍛えることを通じて、勉強や仕事のパフォーマンスを向上させる「**VTS (= Visual Thinking Strategy) ※**」という手法が教育プログラムとして普及しつつあるそうです。

VTSとは、カンタンに言えば**ビジュアルアートをを用いたワークショップによる鑑賞力教育**のことです。参加者には、鑑賞する絵画作品に関する情報を事前に提供しないまま、ただ、絵画を見て感じたことや気づいたことを言葉にしてもらうプログラムです。

参加者の方々に次の質問をして、発言を促し、お互いに「豊かな発見」をして楽しみます。

1. 何が描かれていますか？
2. 絵の中で何が起きていて、これから何が起こるのでしょうか？
3. どのような感覚が自分の中に生まれていますか？

え？これだけ？と思うかもしれませんが、どんな気づきでもO.K! 「へえ～、よく気づいたね。」とか「私はそうではなくて、こう見るかな？」などと意見を交わします。ここで得られることは、

- ① 普段の理性的・論理的スキルだけでなく、直感や感性のスキルを磨ける
- ② 人によってさまざまな解釈の違いに気づき、新しい視点を得られる
- ③ いままで経験から作られてしまった固定観念（“過去のアレね”といった「パターン認識」）から解放され、今まで見えていなかったことに気づく



など、“正解がない事象”に対して、「問題解決能力」の習得が期待できるのですね！

※VTS・・・1980年代にニューヨーク近代美術館（MoMA）の教育部長であったフィリップ・ヤノイン氏と、認知心理学者アビゲイル・ハウゼン氏によって開発された教育カリキュラム

⑤ 「VTS」の演習問題をやってみよう♪

では、「VTS」とは具体的にどんな演習（ワークショップ）なのか、実際の絵画を例に考えてみましょう。下記の絵画をご覧ください。



(<https://www.bing.com/images/search?view=detailV2&ccid=GjwDteZs&id=03353DFD3F120C3DE7C51532EE232F4CB211A22C&thid=OI> より引用)

狭い部屋にいる7人の老若男女がざわつく様子を描いた、ある有名な画家の作品です。まずは何にも知識を持たないまま、何が描かれているか想像してみてください。「何が起きていて、この後どうなる・・・？」
「自分の中に湧きあがる感情は？」など、**見る人によって異なる解釈を“発見”しながら、「観察」から生まれた多様性を楽しんでみましょう♪**
「アフレコ」を考えてみても面白いですね！



⑥ 「美意識」の鍛え方（その2）－“哲学”などを学ぶ

私たちの学校では深く学ぶ機会はありませんでしたが、欧州では、高校の授業などで「哲学」を必修科目としています。彼らは、最初に「哲学」を教養の基礎として学び、それから功利的なテクニックを身につけます。そうすることで、**将来、「正解のない問題」に直面した時も、「自分はこう思う」と語る能力を身につけ、様々な困難を乗り越えていく**のですね。



西洋哲学は、古代ギリシア、中世のキリスト教の神学、ルネッサンス、近代・・・と膨大なコンテンツですが、「知識」よりも、ある哲学者がどのような背景で、どのように悩み、どう真理を見出したか、という**「プロセス」を重要視**することで、自分にも役立つ知恵にしていくわけですね。哲学の歴史は「疑い」がテーマ。「果たして本当にそうか？これが正しいのか？」と**過去や社会システムを疑う冷静な目をもつ**ことも「美意識」の一つといえそうです。

そのほか、「文学」に親しむことで自分のアンテナの感度を磨いたり、「詩」を読んで**「レトリック（修辞）」**※を身につける、という方法も有効と筆者は思います。とくに、リーダーは**「言葉」**が大事であり、**人を惹きつける“言葉の引き出し”や、“人のところを動かす表現力”**を身につけるべく、詩に接してみよう、といっています。

これからDX（デジタルトランスフォーメーション）の時代、才能あるデジタル人材が必須でしょ!?!と聞きや、「詩」を読んで、優れたメタファー（比喩）を増やしてコミュニケーションできる人材（リーダー）が必要！とは意外ですね。



山口氏のこの著書の出版は2017年であり、コロナ禍の前ですが、アフターコロナの**私たちの生き方の基軸**を巧みに示唆してくれていると思います。たとえば「生産性」や「効率性」のように、数値で容易に表示はされない**“個々人の「真・善・美」という美意識（内部規範）”**を持って生きることの重要性を問うテーマでしたね。「美意識」は元来、日本人は得意♪らしいので、その復活にこれから一緒に取り組んでまいりましょう！

※「レトリック（修辞）」とは、文章やスピーチなどの豊かな表現を与えるための一連の技法のこと。

<参考文献> 山口周著『世界のエリートはなぜ「美意識」を鍛えるのか？「経営における「アート」と「サイエンス」』、光文社新書、2017年（初版）・TKC出版『戦略経営者』2019年4月号

◎当事務所では、MFIツールを始め、アイデア出し実践のためのサポートを行っています。お気軽にお声かけください。



発行元：

権田公認会計士・税理士事務所
〒373-0853 群馬県太田市浜町3-6
太田商工会議所会館4階



TEL：0276-49-5575
FAX：0276-49-5576
携帯：090-3543-7314
Eメール：t-gonda@tkcnf.or.jp
HP：http://gonda-office.com/

※無断転載はご遠慮ください。